



価値の再発見⑦

伝統的生態学知識を 保存継承する 海の民話と アニメーション化

小坂典子 (公益財団法人日本交通公社)

キーワード 伝統的生態学的知識、海の民話、民話のアニメーション化

はじめに

伝統的生態学知識 (Traditional Ecological Knowledge, 以下TEK)は、地域社会が長年にわたり自然生態系と相互作用する中で形成されてきた、知識・信念・実践の統合的体系である(大村、2002)。特に海洋に関するTEKは、漁業、航海技術、気象予測、生態系管理、海洋生物の理解など、多岐にわたる知見を含んでいる。これらの知識は主に口承により世代を超えて伝承されており、民話はその主要な手段の一つとして機能してきた。

四方を海に囲まれた日本では、各地に海にまつわる民話が存在している。これらの民話には、潮の満ち引き、魚の習性、嵐の兆候といった生態学的知識が織り込まれ、それが語り継がれることで、その土地での生活に必要な知識や行動が世代を超えて浸透してきた。また、こうした知識の蓄積は、結果的に防災や減災にも寄与していると考えられる。

本稿では、TEKと海の民話の関係を考察し、最後に海の民話をアニメーション化する意義について述べてみたい。

TEKを語り継ぐ 技術としての民話

海の民話は、特定の海域における生態系の特徴や自然現象に関する知識を物語として伝えるとともに、海への畏敬・感謝、漁業や航海の安全、災害への備え、土地の特性など、多様な学びを提供している。例えば、

り、これを後世に伝える手法として海の民話が重要な役割を果たしてきたことを述べてきた。

TEKは、科学的方法論に基づいた知識と比較される際に軽視されがちであったが、近年、その重要性が再評価されている。Kimmerer(2002)は、TEKが単なる民間伝承ではなく、長年の観察と実践を通じて発展した「科学的知識体系」であることを指摘し、科学教育や政策決定への統合の必要性を主張している。

他方で、現代においてはライフスタイルの変化、地方地域からの人口流出、世代間交流の希薄化などにより、民話を含むTEKの伝承機会が減少している。

こうした状況下で、民話のアニメーション化は、TEKの保存・継承のための新たな手段として評価されるのではないだろうか。口承による世代間の交流、コミュニティ帰属意識醸成効果等は一定程度薄れる可能性も否めないが、デジタル化による記録保存や環境教育への活用等も期待される。

おわりに

本稿では、海の民話がTEKの伝承に果たしてきた役割について考察し、そのアニメーション化が今後の社会においてTEKの継承手段として有効である可能性について述べた。民話のアニメーション化は、地域ごとの固有の知恵や教訓を記録し、次世代へと継承する手法となり得る。また、デジタルアーカイブの整備により、TEKの保存と活用新たな可能性が開かれるのではないだろうか。

宮城県七ヶ浜町に伝承される「大根明神のアワビ祭り」は、同地域の良質な漁場が岩礁地帯にあり、高度な航海技術を要することを、地形や神話と結びつけて語り継いでいる。この民話を通じて、当地における海の重要性や信仰との関係を読み取ることができる。

「大根明神のアワビ祭り」の概要
昔、花洲浜に向かう親船が、急に荒れた海に襲われた。船が大根明神の岩礁を通過した際、突然、船底に穴が開き、大量の海水が流れ込んだ。船員たちは必死に水を汲み出したが、状況は悪化するばかりであった。船頭が鼻節神社に向かい、神に助けを請うと、不思議なことに海水の流入が止まり、無事に浜へ辿り着いた。船底を確認すると、大きなアワビが穴を塞いでいた。この出来事以来、村人たちは鼻節神社の祭りに生きたアワビを供えるようになったと伝えられている。

(海と日本プロジェクト in なぎさ実行委員会 2019)

民話が伝える知識と教訓

- 1 海域の危険性…民話に登場する「入ってはいけない場所」は、岩礁など海底地形の危険性を示唆していると同時に、豊かな漁場の形成に関する知識も内包している。
- 2 地域文化の起源…アワビ祭りの由来を知ることで、地域の伝統文化や海の恵みに対する感謝の念を学ぶことができる。
- 3 地名の由来…「鼻節」と「花洲」は、同じ語源を持ち、歴史的な変遷の過程で異なる表記が定着したとされる。
- 4 消失した信仰の記憶…「大根明神」は、かつて海底に存在した神域であり、貞観地

震(869年)による地盤沈下により失われたが、その名が今も伝承されている。

「海ノ民話のまちプロジェクト」では、2018年より日本各地に伝わる海の民話を発掘し、地域住民や関係者と協力しながらアニメーション化する取り組みを進めている。2025年1月時点で92本の海の民話がアニメーション化され、2024年からはそれを体系的に整理し、データベース化する作業も開始している。

データベースは構築中であるが、その作業を通じて明らかになったことは、いずれの民話にも地域固有の教訓や知恵、すなわちTEKが含まれ、それが世代を超えて共有される物語として成立している点である。また、興味深い点は、各地域で語り方の違いがあるものの、共通して「後世に伝えるべき事象」を各地域固有の具体的なモノや出来事と結びつけ、物語化することで世代間の共有が可能になっている点である。TEKとは、その土地で暮らしていくための知識・実践・信念の体系であり、民話はそれを次世代へ受け継ぐための手法として機能してきた。つまり、民話は物語という範疇を超え、TEKの継承を担うひとつの手段として人々の暮らしのなかに根付いてきたとも捉えられるのではないか。

海の民話を アニメーション化する意義

ここからは将来に視野を広げたい。これまでTEKは長年にわたって自然環境との共生を通じて培われてきた知識体系であ